



序章



1. 位置と風土

北信州森林組合は、長野県の最北部に位置しており、中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の2市1町2村からなり、周囲を山岳、高原、湖沼など豊かな自然に囲まれています。

観光・リゾート地として発展するとともに、高速交通網の整備が進み様々な分野での発展の可能性が一層高まっています。

管内の人口は、80,660人で県総人口の約4%、面積は737.79km²で、県総面積の5.4%を占めています。

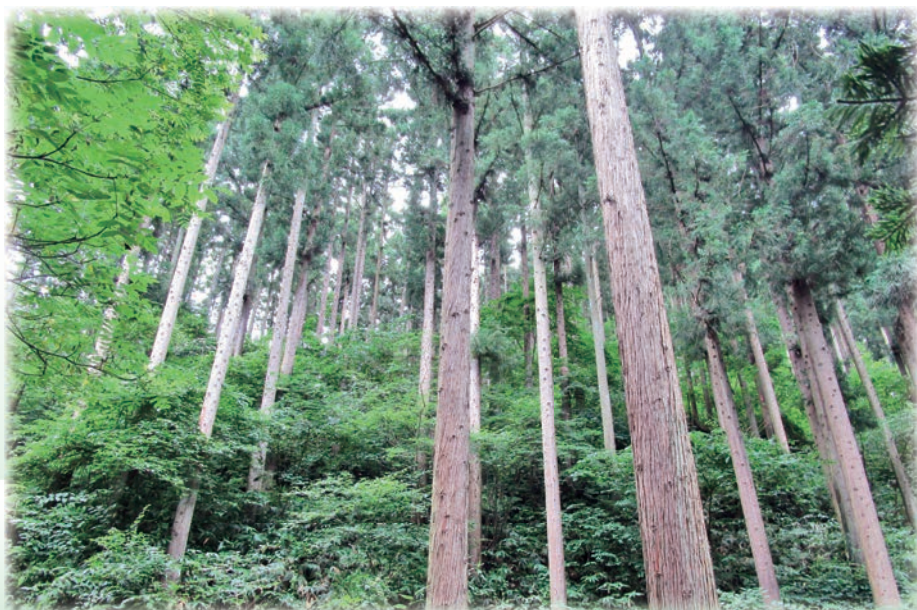


全般に内陸的な気候を示し、夏期と冬期の気温の差が大きくなっています。年平均気温は約8℃から12℃、年降水量は約900から2,000mmで、冬期の季節風は降雪を伴い高社山より北の地域は全国有数の豪雪地帯となります。

地形は、幼年期又は早壮年期の形状を呈していますが、一部山麓地域は浸食が進み満壮年期の形状を呈しているところもあります。河川上流部は急峻な地形がみられますが、他は概して緩やかなすそ野の地形と台形状をなしています。

地質は、安山岩類や火山灰、火山砕屑物さいせつぶつが広く分布しているほか、石英閃緑岩せんりよくがん、ひん岩が分布しています。褐色森林土が多く、飯山市以北の千曲川東岸及び高社山麓に黒色土が分布し、志賀高原から東部山系にはポドソル土壌が見られます。

千曲川東岸の火山帯は地味肥沃で材木育成に適し、特に玄武岩、石英閃緑岩せんりよくがんは適度な湿度と相まって、スギが極めて良く生育します。



管内 スギ林

雪国の特性を生かして、志賀高原、野沢温泉、斑尾高原などではウィンタースポーツが盛んです。夏でも豊かな自然が残るカヤノ平高原、木島平スキー場ではにぎわいを見せています。

湯田中、渋、野沢温泉など、温泉資源に恵まれた多くの観光地があります。中野市は、土雛の里として有名であり、中山晋平、高野辰之のふるさとでもあり、唱歌「故郷」のモデルでもあります。飯山市は寺院が多数並び、「寺の町」とよばれています。しかし地域全体では年間を通して、観光客の数は減少傾向にあります。

産業では、仏壇、内山紙など、伝統的工芸品を造る地場産業に加えて、全国トップレベルのえのきだけ生産量を誇ります。ブドウ、りんごなどの果樹や米、アスパラガスなど、生産性の高い農業が盛んとなっています。



北信州森林組合 本所

2. 北信州森林組合の概要

北信州森林組合は、中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、豊田村の旧6森林組合が合併し、平成13年12月に設立しました。

当初は県や市町村による森林整備発注が計画されるなど、安定経営が期待されていました。しかし、平成14年から県政での入札制度改革が始まり、民間事業者や異業種参入などや、市町村では国の三位一体改革により予算が縮小されるなど、期待とは大きく懸け離れたものとなってしまいました。そのような状況から、組合員から森林組合が直接事業を受託する、組合事業主体となる受託森林整備事業へと大転換を図りました。

更に、それまでの保育中心であった森林整備から、木材を生産し販売する搬出間伐へと移行しました。それにともない、旧来の生産機械から高性能林業機械へと設備投資を行い、林産事業主体の組合へと変化してきました。

高性能林業機械の配備とともに、直営林産班を組織しました。現在は作業道開設を含め5班体制となり、当初年間3,000m³程度の生産能力でしたが、現在は20,000m³程になっています。

こうした森林整備のために、森林境界明確化を行い、作業委託契約を集約することを専業とする職員を配置して事業を進めました。これまでにを行った境界明確化面積は6,000ha超となっています。

また、旧組合単位にあった支所についても、業務を業務課に集約する中で、作業班を再編して山ノ内町の赤坂林産事業所（林産班）と木島平村の千石造林事業所（造林班・利用事業班）の2箇所に集約し、支所事務所についても組合員業務を総務課に統合して、効率化を図ってまいりました。

そして、雪により森林整備等ができない冬季においては、管内の道路やスキー場駐車場等の除雪を行うなどして雇用の維持に努めてまいりました。

現在は、本所に総務課と業務課事業係と計画係を置き、飯山に支障木伐採等や冬季事業を受持つ利用事業室を配置しています。



搬出間伐 スイングヤードによる集材



支障木の伐採



ロータリー除雪車 道路除雪